

■ 子宮頸癌のワクチン治療

日本では、子宮頸癌で年間約3,000人が尊い命を落としています。以前から、子宮頸癌とイボとの関連が言われていましたが、DNA検索により、ヒトのイボのウイルスが子宮頸癌の原因であることが突き止められました。そこで、イボのウイルスからワクチン(商品名:サーバリックス)が開発され、欧米では2007年から実用化されています。日本でも、2年遅れでこの10月には承認される見込みです。ワクチンは1クールで3回の接種となります。現在、ワクチン接種から6-7年の効果が確認されています。諸外国では、1歳未満の接種が行われているところもありますが、日本では、小学校以上になる見込みです。

子宮頸癌の発病が多い年齢は、20代後半~30代という妊娠・出産の時期とも重なっています。全ての女性がワクチン接種できるよう、国費による助成が期待されます。

平成21年9月分原稿

はらクリニック院長 原 徹